

【氷上文化センター】 ☎:0795-82-1064

番号	タイトル	内容	VHS	DVD	時間	制作年	保管番号
D-1	心のどこかに	自分は同和問題を理解していると思っていた一人の主婦が、ふとしたことから自分の心のどこかに差別心があったことを知る。現在も残る部落差別について考える人権啓発ドラマ。		○	30分	1993	D-1
2	パースディレストラン	中学3年生の主人公が、父親の死によって始めて自分の両親の離婚の原因が部落差別にあったことを知り、部落差別と正面から向き合い乗り越えていこうと決心するまでの姿を描いています。		○	30分	2001	D-2
3	同和問題と人権 ～あなたはどのように考えますか～	我が国、固有の人権問題である同和問題の解決を図るため、国は地方公共団体とともに立法措置を含む様々な対策を講じてきましたが、インターネットを悪用した差別的書き込みや結婚・就職問題を中心とする差別事案は、いまだに後を絶ちません。同和問題とは一体どのような問題なのか、どうしてこのような問題が存在し、何故なくならないのか。同和問題を正しく理解し、同和問題を解決するためにはどうすればよいのか考えていく内容。		○	28分	2009	D-3
4	部落の心を伝えたいシリーズ第3巻 あした元気になるあれ ～元氣配達人・松村智広～	全国各地で精力的な活動と、その人を引きつけて止まない講演内容から、部落の若きスターと呼ばれてきた。2000年4月、13年ぶりに中学校教師に復帰した松村さんが、まず始めたことは、全校生を集めてのヒューマンタイムであった。学校に1日も行くことができなかった祖母トラさんと呼ば入れ、子どもたちに自らのありのままの姿を晒した。本作品は、顔の見える教師として子どもたちの中に飛び込み、人間を育てることを決意した松村さんの姿を追う。		○	27分	2000	D-4
5	部落の心を伝えたいシリーズ第4巻 人の世に熱と光を ～水平社の湯仰者西光寺・清原隆宣～	21世紀の人権文化の思想的原点である「水平社宣言」。その精神を清原隆宣さんは、「水平のものさし」の見直しという。人は何故、平等になれないのか。人は何故、尊敬し合えないのか。西光万吉の系譜を引く清原隆宣さんを通して、「水平社宣言」の核心を描いた。		○	26分	2001	D-5
6	部落の心を伝えたいシリーズ第5巻 峠を越えて ～魂の同和教育実践者・森口健司～	その果てしない闘いに生涯をかけている。中学教師としてユニークな同和教育を実践。現在は、徳島県の派遣社会教育主事として、差別解消への道筋をエネルギーに語り続けている。		○	25分	2003	D-6
7	部落の心を伝えたいシリーズ第6巻 差別っていったい何やねん ～歩く水平社宣言・川口泰司～	熱く語り継ぐ新世代。世代を超えて伝えなければならない強い思いがある。差別のない社会を願い、懸命に生きてきた父や母、祖母、そして多くの先輩たち。その思いを語り継ぐ新世代である。差別の本質を追求し、自分の言葉と分かりやすい表現で語りかける川口さん。足元を見据えた日々の地道な活動に裏付けられたハートフルでエネルギーに満ちた講演は、多方面から注目され多くの共感を呼んでいる。		○	30分	2004	D-7
8	部落の心を伝えたいシリーズ第8巻 ぬくもりを感じて ～刺激的ナイスガイ・中倉茂樹～	山と川に抱かれた徳島県吉野川市に生まれた。現在、警備会社で働きながら、年間70回に及ぶ講演活動を行っている。「部落差別をなくすことに、人生を賭けたい」と力強く語る「刺激的ナイスガイ」「いじめ」にあい続けた小学校時代。部落民宣言で知った人の「ぬくもり」。結婚差別と闘う「今」		○	30分	2006	D-8
9	部落の心を伝えたいシリーズ第9巻 私からはじまる人権 ～子どもに伝える 柴原浩嗣・宮前千雅子～	2人は1993年に結婚、ともに人権問題に深くかかわる人生を選択してきた。3人の子どもたちに恵まれた今、一番の問題は小学6年生になった上の子に、部落出身をどう伝えていくかということ。仕事の上で、生活の場で、2人の共通のテーマはまさに「私からはじまる人権」の実践であり、「そして、あなたは？」の問いかけである。		○	27分	2006	D-9
10	部落の心を伝えたいシリーズ第10巻 えびす舞に思いをのせて	辻本一英(徳島県)さんは、小学生の時初めて被差別体験をし、高校で就職差別から進路に悩む。臨時教員として同和教育に出会い、それから「自分探しの旅」が始まる。被差別民の伝統芸能を掘り起こした経緯を語りながら、「差別の不合理」と「被差別民のアイデンティティ」について解説する。		○	28分	2006	D-10
11	部落解放運動の歩み ～人間は尊敬されるもの～	■戦前編 水平社の運動 ■戦後編Ⅰ 部落解放運動の再出発 ■戦後編Ⅱ 部落解放に向けた新たなステージ		○	60分	2012	D-11
12	ヒューマン博士と考えよう ～差別から人権の確立へ～	日本の伝統的な芸能や文化が、差別された人びとの生産や労働に支えられてきたことなど、差別された人びとの歴史と暮らしに焦点を当てながら、私たちの歴史の中でつくられた偏見や差別の解消につなげていくことを目的とし、差別の歴史と人びとの暮らしについて、時代を追って明らかにする。		○	28分	2005	D-12

【氷上文化センター】 ☎:0795-82-1064

番号	タイトル	内容	VHS	DVD	時間	制作年	保管番号
13	シリーズ映像でみる人権の歴史 第1巻 『東山文化を支えた差別された人々』	人権を侵害されてきた人々について、私たちは「マイナスイメージ」ととらえがちです。しかし、世界遺産である銀閣寺や龍安寺の庭園などをつくったのは、実は「河原者」であったという歴史事実は、こうしたイメージをまったく逆転させました。このDVDでは、「河原者は差別を受けていたにもかかわらず偉大な芸術家になった」という事実を、丁寧にえがきました。また差別されてきた河原者を、その芸術面の方で率直に評価し重用した足利義政、自分たち僧侶より立派だと讃えた景徐周麟など、山水河原者に活躍の場を与えた人々の存在もしっかり描き、こうした差別しなかった人たちの姿も強調しました。		○	17分	2015	D-13
14	シリーズ映像でみる人権の歴史 第2巻 『江戸時代の身分制度と差別された人々』	身分制度は江戸時代に突然つくられたわけではなく、中世から引き継いできたものという記述が多数となりました。このDVDでは、中世に始まったすべての身分が、居住地や税制、戸籍などで身分を固定され、江戸時代に「制度化」されたことを、分かりやすく解説し、すでに間違いと分かり教科書から消えた「士農工商えた非人」の図式に代え、積極的に新しい図式を提示しました。それを示す具体的な例として、穢多頭・弾左衛門や様々な絵図をとりあげました。		○	18分	2015	D-14
15	シリーズ映像でみる人権の歴史 第3巻 『近代医学の基礎を築いた人々』	江戸時代中期、山脇東洋が日本初の医学解剖を実施し、17年後解剖を実現した杉田玄白は、『ターヘル・アナトミア』を手にも人体解剖を見学しました。そのとき実際に解剖してみせたのは差別されてきた人々でした。このDVDでは貴重な原書を取材し、大切な命と向き合い、生きてきた人々の姿が描かれています。		○	17分	2015	D-15
16	シリーズ映像でみる人権の歴史 第4巻 『明治維新と賤民廃止令』	幕末、長州藩では差別されてきた人々が「維新団」として活躍し江戸幕府が倒されました。しかし、成立した明治政府が出した「布告」は税を取ることが真の目的であり、加えて壬申戸籍の差別的な記載を許可したことなどで、差別はなくなりませんでした。最新の研究を基に公文書を読み解き、部落差別が近代になっても存続した構造を丁寧に描いています。		○	18分	2015	D-16
17	シリーズ映像でみる人権の歴史 第5巻 『汚染一揆を闘いぬいた人々』	江戸時代末期、岡山藩では庶民に出した儉約令を徹底するため、被差別身分の人々に「柄のない汚染めか藍染以外の着物の着用を許さない」というさらに厳しい御触れを出します。あからさまなこの「分け隔て」の「差別」を認めるわけにはいかないと藩内53ヶ村の人々は、のちに「汚染一揆」と呼ばれる大規模な抵抗運動を起こしました。人としての尊厳をかけ、社会情勢を見抜き、知恵と力を合わせて戦った人々から、いま学ぶべきことは何かを問いかけます。		○	18分	2017	D-17
18	シリーズ映像でみる人権の歴史 第6巻 『日本国憲法と部落差別』	日本国憲法がどのような経過を経て制定されたのかを検証し、その過程で民主選挙によって選出された国會議員たちが、主体的に憲法制定に取り組んだことを明らかにしました。さらに、平和の基礎となる人権尊重の精神がどのようにして書き込まれたか、とくに第14条の条文をめぐる議論に注目し、ここに「部落差別の禁止」が記載されたことも明らかにしました。だれひとりとして「差別されない」と明記された「日本国憲法」こそが、真の「解放令」であることを伝え、「差別を黙って見過ごしてはならない」ことを、いま改めて憲法の意義とともに問いかけます。		○	17分	2017	D-18
19	シリーズ映像でみる人権の歴史 第7巻 『水平社を立ち上げた人々』 一人間は尊敬すべきものだー	第一章 「差別でなく尊敬を」と訴えた人々ー西光万吉の生い立ち・夜明けをめざして・創立大会をめざした人々たち 第二章 子どもたちの訴えー差別も戦争もいやだー山田孝野次郎の訴え・少年少女水平社の創立		○	17分	2020	D-19
20	シリーズ映像でみる人権の歴史 第8巻 『ひとと皮革(かわ)の歴史』	ひとは、生き物の命を奪い、食べなければ生きていけません。しかし、動物の命を奪うことを残酷、穢れているとする考えが日本に広まり始めました。肉の仕事などに関わる人を差別してきた背景には、こうした考えがあり、そこから部落差別が生まれるのでした。 それでも、動物の肉や皮はもちろん、皮から作られる「ニカワ」は、筆、墨、家具、医薬品、武具から仏像の接着にいたるまで、人々の生活と密接に関わり、「ひと」の文化を発展させてきたのです。皮革製品の製造過程を取材した貴重な映像を通して、部落差別の愚かさや「いのち」の大切さを考えさせる教材です。		○	19分	2020	D-20
21	ノーマライゼーションを考えるシリーズ 身体障害者-社会に向けて自分を発信する-	社会の一員として身体障害者が自己主張の声をあげ始めた。会社社長、劇団員等として生きる身体障害者の姿を通して、当たり前の生活とは何か、対等な関係とは何かを考える。		○	22分	2004	D-21
22	青春のヒューマン・ステージ	福岡県企画 地域や職場の学習会・研修会用に作成したビデオです。同和問題、女性、障がい者、外国人など様々な人権問題を提起しています。		○	31分	2005	D-22

番号	タイトル	内容	VHS	DVD	時間	制作年	保管番号
23	失われた命へ誓う ～東日本大震災が教えたこと～	東日本大震災は、豊かさや平和の中で、当たり前と思っていた生活のすべてが、実はかけがえのない、ありがたいものだったことを私たちに痛感させました。人と人の絆、一人一人の命を大切に生き方を私たちはしているのか。水・電力・食糧・・・それをありがたいと感謝していただろうか。この作品は、被災した人々、震災によって多くを失った人々を紹介しながら、私たちの今を振り返り、震災後のこれからをどう生きるかを共に考えます。		○	20分	2011	D-23
24	ヒロシマ原爆被爆 ～真実を語り継ぐ～	過去の体験は未来を示す道しるべです。私たちはこの悲惨な出来事を風化させることはなく、世界平和の実現に向け、後世に語り継がなければなりません。そのような思いから、加東市在住で被爆体験をお持ちの河井克夫さんに「あの日あの時、一体何が起こったのか」を語っていただきました。		○	30分	2013	D-24
25	あの空の向こうに	お互いの「思い」を交わし、心の寄り添うようなコミュニケーションを図ることの大切さと、家族の果たす役割にも気づかせます。		○	38分	2009	D-25
26	インターネットと人権	いま、私たちの生活のなかでインターネットは欠かせないものになっています。しかし、便利さの反面、インターネットに関わるいろいろな問題点も指摘されています。このビデオでは、インターネットに関して起こっている幾つかの実際の人権侵害を取材し、事件の背景やインターネットの特性について考え、そして、情報化社会のなかで人権と向き合うために私たちがどうすべきか探ります。		○	22分	2009	D-26
27	おじいちゃんは丹波杜氏	被差別地区の人に対しては堅く門が閉ざされていた酒造現場。この不合理を解決するために働きかけが行われ、ある青年が就労できる事になった。この物語は、青年の実体験を基に、酒造りに関わる多くの人々の願いや努力を語り継いでいこうという想いを込めて制作した人権学習教材。		○	17分	2009	D-27
28	映像で学ぶ-部落差別解消推進法-	①「部落差別解消推進法」の制定と部落差別の現在 ②「部落差別解消推進法」の法的意義と活用法 ③「部落差別解消推進法」の条例化と私たちの役割		○	45分	2019	D-28
29	部落史学習DVDシリーズ(歴史編)	『近代日本社会と部落差別』1871年の解放令は、四民平等の社会を実現しようとしたましたが、あたらしい価値観や秩序の下で、部落差別は再生産され続けました。部落の人びとが主体となり、反差別の思想を打ち出して立ち上がった運動を詳しく紹介します。『よき日のために-全国水平社80年の戦いに学ぶ』		○	71分	R3.2.9 (取得日)	D-29
30	部落史学習DVDシリーズ(身分と生業編)	『近代身分制社会と被差別民-役目と生業-』前近代(中世、近世)の身分及び、近世身分制社会の在り方を城下町・大阪の形成からみるとともに、被差別民の果たした役目と生業について紹介します。『皮革と被差別部落』		○	91分	R3.2.9 (取得日)	D-30
31	部落史学習DVDシリーズ(芸能と文化編)	『被差別部落の芸能と文化』『職人の技』部落の生活を支えた様々な産業・仕事に長年携わってきた職人が、仕事の中で身に着けた技を見るとき、語りを通して生活と部落の産業について紹介します。		○	146分	R3.2.9 (取得日)	D-31
32	私たち一人ひとりができること～当事者意識を持って考えるコロナ差別～	新型コロナウイルスの感染が拡大する中、感染の不安から感染した方への誹謗・中傷や特定の職業につく人々への不当な差別などのいわゆる「コロナ差別」が問題となっており、各自治体でコロナ差別解消に向けた様々な取り組みが行われています。本作品は「コロナ差別」の特徴と差別や偏見がやぜ生まれるのか、そしてどのように向き合っていけばいいのかを学べるドラマ形式の人権啓発教材です。		○	26分	2021	D-32
33	部落の心を伝えたいシリーズ第31巻 ありのまま生きる ～坂田愛梨・瑠梨～	愛梨・瑠梨、7年ぶり2度目の登場。母から受け継いだ「ありのままに生きる覚悟」。就職・結婚・出産を経た今、伝えるべきことは？ 仲間、つながり・・・部落問題をはじめとする人権問題を考えることが「生きる力」を育んだ。現代社会の中の何気ない会話や行動の中にある差別について考える教材です。		○	24分	2017	D-33

【氷上文化センター】 ☎:0795-82-1064

番号	タイトル	内容	VHS	DVD	時間	制作年	保管番号
34	シリーズ映像でみる人権の歴史 第9巻 『文化を生み育てた人々』	室町時代から江戸後期に至るまでの「能」「歌舞伎」「人形浄瑠璃」などを取り上げつつ、現代にも伝わる徳島県の「門付け芸」や富山県の「おわら風の盆」などを実際に取材し、消えかかった芸能を保存・継承してきた方々へのインタビューを取り入れ、いかに芸能が差別を乗り越えた民衆によって支えられ発展し、現在まで継承されているかを学ぶ教材です。		○	20分	2021	D-34
35	シリーズ映像でみる人権の歴史 第10巻 『差別のない社会へ』—私たちはどう生きるか—	子どもたちが直面したいじめをきっかけに、4人のゲストティーチャー（被差別部落出身、電動車椅子ユーザー、在日コリアン3世、日本人とアメリカ人とのダブル）を招いたオンライン学習を通じて、子どもたちが社会にある様々な差別に気づき、自分自身を見つめ直し、よりよい生き方をめざす姿を描いています。子どもたちに、差別を許さない生き方はどうあるべきか、現代社会に残る差別を解決していくために自分は何ができるかを考えてもらうドラマ形式の教材です。		○	20分	2022	D-35
36	被差別部落へのまなざし —同和問題認識の近代史—	なぜ差別が残りつづけるのか。私たちはなぜ部落問題を克服できないのだろうか？ 日本はかつて賊民と呼ばれる差別される身分の人々がいた。1868年、日本は天皇の下で近代国家として再編され、賊民身分の人々は差別された身分から解放された。しかし差別は形を変えて本来は存在しないはずの被差別部落民を創り出し、部落差別は未だ解消されていない。 本作品では、黒川みどり（静岡大学名誉教授）の解説を軸に、静岡大学学生による文献の朗読によって、近代の同和問題認識を浮かび上がらせる。そして守田智（静岡大学教授）がネットワーク科学を用いて私たちと同和問題との「つながり」を解き明かす教材です。		○	40分	2024	D-36

【氷上文化センター】 ☎:0795-82-1064

番号	タイトル	内容	VHS	DVD	時間	制作年	保管番号
----	------	----	-----	-----	----	-----	------

【氷上文化センター】 ☎:0795-82-1064

番号	タイトル	内容	VHS	DVD	時間	制作年	保管番号
----	------	----	-----	-----	----	-----	------